

清道之卷

全

和装本

ケ 5

44

168





大坪本流清道之卷

春生軒永藤定易撰

夫百里外ニ出馬スル一ハ其宜ニキニ  
 棄シテ止事ヲ得サル故ニ敵国ニ趣ナリ  
 然ル時ハ令列貝人三ツノ物ヲ以テ行止  
 ヲ正シクシテ清道スヘシ貝ハ出ル太鼓  
 ハ行鐘ハ止ルハ旌ハ人救ヲ分十五旌ハ  
 前陣ヨリ事ヲ告ル幡ハ大将ノ馬邊ニア

報

リ勿論幡指<sup>指</sup>ハ大切ノ物成故剛兵ニシテ  
馬達者考物ノ手利ヲ用ヘシ唯常ニ兵ヲ  
勵シ山川ノ狩ナトニナソウエテ其志ヲ  
竊シ兵ノ懸引分合ヲ馴サシムヘキ者也

清道行例之事

一番物見

古来ハ鉄炮ナシ

二番三段

三番弓

四番長柄

五番用具

一番正軍

二番<sub>左軍</sub>右軍

三番左正軍

四番左奇軍

五番右正軍

六番右奇軍

七番中軍

八番後正軍

一番家中雜人

二番小荷駄

三番殿弓

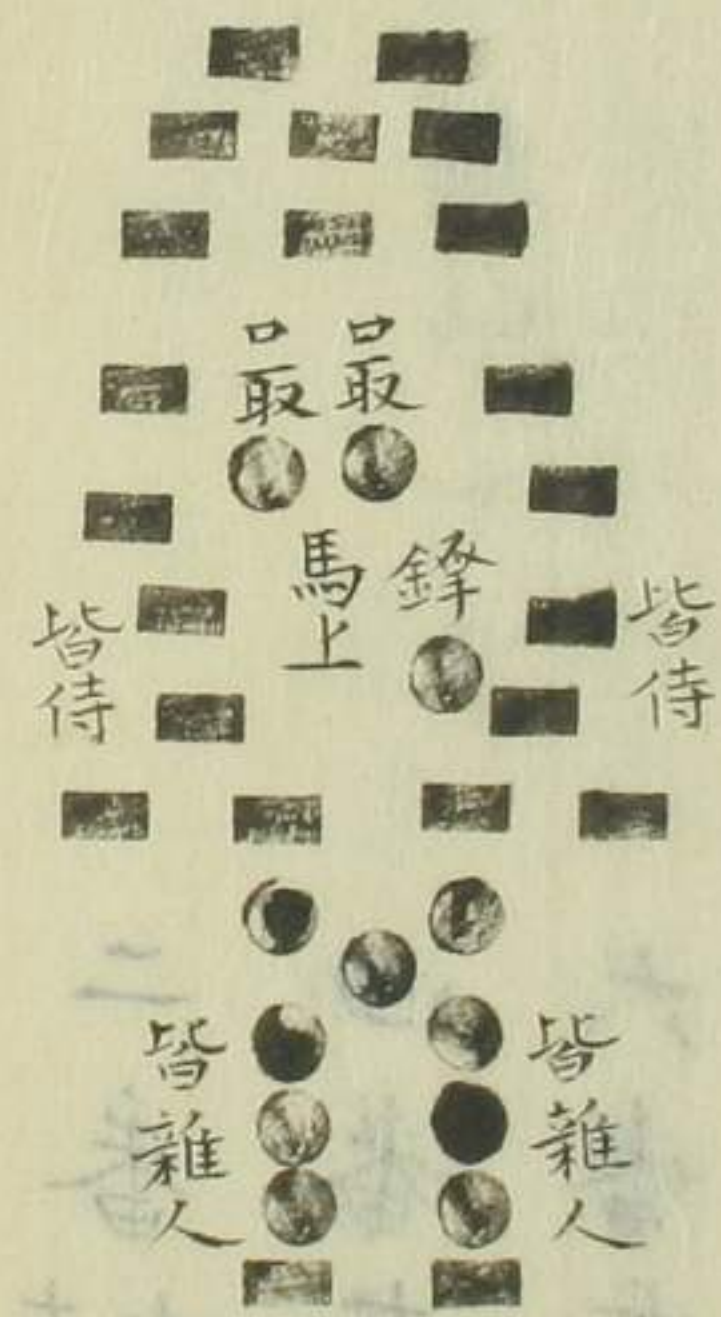
今代ハ弓鉄炮

四番後物見

右次第大概此ノ如シ是平家追討  
ノ時頼朝公ノ定ノ至ヲ行例也然共大

將ニヨリ家風ノ吉例ニヨリテ行例モ又  
 一様ナラスト知ルヘシ大軍ノ將モ右ノ  
 如ク一軍宛シキリテ雜人小荷駄ノ遠退  
 ル事アルヘカラス

一騎行例之事



一騎行例圖ノ如ク五人宛組テ魚鱗ニ立  
 テ可也口傳

一騎朝兵行例之事



一騎朝兵行例圖ノ如ク立ヘシ口傳  
 二本鎚前副右副之事

一本鎧腰副之事

具足持七様之事附

摔箱之事

但家風古へシ

口傳

鞍置還馬ハ先鞍下ニ一尺八寸四方ノ合布

ヲ敷テ具上ニ鞍ヲ置還置乾ハ強クナク弱ク

ナク能キ加減ニスヘシ韃鞞ハ常ヨリ次

シユルリト仕掛タル吉沓卷ハ布ニテ重

子テ卷ヘシナルホトシメテ沓ヲ捆捆ヘシ

録繩ヲ差時ハ響ノ鐘ヨリ繩ノミスヲ通

シテ留ル也追繩ハ常ノ如ク差スヘシ左

口取ハ鼻捻右口取ハ馬柄杓ヲ腰ニ指ヘ

シ勿論手繩ヲモ一筋宛前掛ニ挟ムヘシ

口傳

駢馬之事前ニ襍背馬其次ニ鞍置馬ヲ駢

ヘシ出家ノ馬ナラハ前ニ鞍置馬ヲ駢也

古代ハ出家ノ馬ニ騎申宵ヲ帯スルナラハ

ナケレトモ源平以来馬ヲ愛スル故又此

法式アルナリ  
馬ニ咎相時ハ前後二人ヲ殘シ置キ傍工  
引退テ相ヘシ一町ニ町殿テモ馬入能者  
也其外用事調調ル時モ傍工引退テ例ノ如  
ク棄ヘシ

我馬ノ地道早クシテ前馬ニ付ホトナラ  
八九折ノ如ク棄ヘシ口傳  
前平ヨリ左右ナキ前サキニ騎馬ノ間工具足

梓箱入ヘカラス前ノ相圖ニヨリテメニ  
ミノ諸兵ノ左右ニ付ヘシ但シ具足ハ右  
ノ方梓箱ハ左ニ添ナリ先々ノ兵士ノ  
者ヨリ次第ヲ追テ行ヘシ背テ出スコシ  
キ者也附梓箱ノ内工入ル物之事上下小  
袖湯帷子上帶下帶皮足袋鑓印鑓鞘袋鑓  
盪貝足火布付竹火繩雨兩松明細引觀善糾  
曲尺規櫛道具糸針血留息合藥青銅飯水

吞等マテ分限ニ隨ヒ用意スヘシ  
冬遠路ヲ棄馬ハ四足ヲ酒ニテ洗タル吉  
寒氣ヲ防ク也此外棄人モ馬モ寒ニ當テ  
ル藥アリ口傳

小河ヲ渡シテモ沓ヲ外ニ破ヲ拂ヘキ者  
ナリ

石ノナキ地形破場ナトニテハ沓ヲ相ヘ  
カラス細々四足ヲ洗シシ日カキヲ洗ヘキ者也

馬疏ノ泥リ道ニハ頭ヲ下サセ馬次第ニ  
歩セヘシ若シ馬意立棄合ハ口ヲ取セ色  
ヲ以テ歩セヘシ  
山ヲ登スル時ハ追繩ヲタルメ又山ヲ下  
ス時ハ口ヲ近ク取セテ落スヘシ  
切通ヲ牽時ハ繩ニテ通スヘシ馬狂ヒ  
テ口取者ヲ抱クホトナラハ違繩ニテ牽

滑り地ヲ押ス時ハ鉏杖ヲ以テ其地ヲ十  
ラニテ行ヘシ

馱ニ荒キ馬ナラハ横馬ニナシテ通スヘ  
シ然其強ク狂フ時ハ遊繩ヲ用ヘキ者也  
雪積リタル取ヲ押ヲ行時ハ寒ニ當ラサ  
ル藥ヲ付テ騎馬ヲ前ニ立

押スヘシ

天日雲雪積リ夜暗ク雨降り山野ニ路ニ迷ハ

ハ 老馬ヲ先ニ立テ道ヲ知ルヘキ者也

山路ニ迷フ時ハ下ラント思フ時ハ澤ニ  
付テ下ルヘシ必ス里ニ出ル者也登ル時  
ニ七澤ニ付テ登ルヘシ道<sup>叶</sup>クハ山峯ニ登  
リテ其山ノ腰ニ付テ登ル時ハ必ス道ア  
ルヘシ山ノ低キ方ニハ惣シテ道ナキ者  
ナリ其国ノ方角ヲ見テ海ノアルヘキ方  
ニ必ス澤アリ其澤ニ付テ下ル時ハ必ス



大道ヲ求ムル者<sup>モ</sup>也惣シテ山路ニ迷フ時  
ハ夜ハ月星益ナラハ日ヲ以テ東西南北  
ヲ考ル時ハ少シモ惑ナキ者也嶮岨成所  
ニテハ馬ヨリ下テ牽スヘキ者也

山ヲ登ルニモ下ルニモ山形ヲ見テ九折  
ニテ棄ヘシ

舟棄<sup>ル</sup>并ノ馬ヲハ繩ヲ馬ノ下腹ヲ通シテ  
前足ノ根ニ掛テ繩ノ端ヲ二人ニテ取<sup>ル</sup>松

ノ中ニ引ヘシ馬足ヲ運フ時ハ後ヨリ鞭  
ヲ以テ追ヘシ又月ノ下ニ繩ヲ掛其繩ヲ  
引<sup>テ</sup>カラ足ヲ取テ舟ニ入ヘシ其時引廻  
シノ方ヨリ磯際ヲ見セテ立ヘシ  
波ヲ驚ク馬ヲハ女波男波ノウツヲ見テ  
波々、ミカケテ奇スル時ハ馬ノ三双ヲ波  
ノ方ニナシテ女波ノツ時直ニ直シテ入  
ヘシ

水ヲハ驚スシテ舟ニハ棄シトスル馬ヲ  
リ然時ハ舟ヲ磯ニ立馬ヲ澳ノ方ヨリ入  
ヘシ

馬船ハ舟底ニ木ヲ渡シテ蔣ヲ敷其二  
又木ヲ渡シ厚板ヲ双ヘテ強ク堅ムル也  
三方ノ腰板ヲハ蔣ヲ以テ張立板疊ヲ以  
テ圍也胴繩ヲ能掛首繩七強キヲ用ヘシ  
惣シテ船中ニテハ馬臥スル事アルヘカ

ラス風雨ノ時分ハ一入馬荒立騒ク者也  
兼テヨリ其心得スヘシ勿論大船ニテモ馬  
六七疋ヨリ多ハ棄スヘカラス其内一疋  
ニテモ荒キ馬アレハ夫ニ誘ヒテ除ノ馬モ  
騒ク者也然ル時ハ舟ノ煩トナル故ニ急  
キ陸地ヲ亭スヘシ  
天氣ヲ見ルコト船中ノ第一也日出ル時雲  
日ニ向<sup>ヒ</sup>往ハ天氣吉東風次日ハ必ス雨

也日出ル時清夕明カニ雲ナキハ天氣吉  
光テ雲ナキハ風也三日月ノ先央トナレ  
ハ天氣吉三日月ト見サルハ霖雨也月ノ  
光リ白ハ天氣吉星ノキラヲトスルハ風  
也富士<sup>ト</sup>豊ニ見ル<sup>ク</sup>ハ天氣吉富士ノ央  
ニ見ル夕ハ風也富士ノ形見サル夕ハ雨  
也春霖雨<sup>ト</sup>ノ後雷鳴或虹張或夕陽赤夕或  
夜寒キハ明日ヨリ天晴ルナリ夏ハ東南

ノ風ニ雨降り西北ノ風ニ天晴ル也秋霖  
雨ノ後夜<sup>ル</sup>陰氣登ル時ハ明日ヨリ青天  
也冬烈風甚寒ノ後ハ必ス雪降ル也惣ニ  
テ雨風ハ時ト所ニヨリ替ル者也  
舟ニ着テ馬ヲ陸上ル時怪我アル物  
ソ能ク心ヲ付ヘシ先馬ニ長繩ヲ舟端  
ニ引出シ其繩ヲ王輪ト手繰テ向岸<sup>キ</sup>ニ投  
越<sup>越</sup>人ニ扣エサセ後ヨリ走ヲ懸テ清工飛

スヘキ者也口傳

舟ヨリ上リテ陸地ニ趣ク時ハ馬必ス癱  
者也其心得アリテ夜眼曲地ヲ灸スヘシ  
湯洗ハ勿論能クシテ四足ヲ庇ケタル吉  
宿ニ着テハ燒塩ヲ唾セロク高ク張上休  
スヘシ其後粥草ヲ飼ヘシ道中勿論陳中  
ニテ荒糲ウ堅ク飼イアルヘカラス  
同宿ニ着テ鼻草ハカリニテ置少ニ臥セ

寝カエリヲシテ起アカリタル所ヲ脰繩  
ヲ懸テ寝スヘカラス惣シテ旅ニテハ寝  
セマシキ者也

夜中庇ニテ畜ヲ捆ヲハ外ニ外ニテ何足  
モ石ヲ如クシテ翌日道中ニテ其脊ヲ捆ヘ  
ニ畜摺アタルヲナシ  
馬ノ尻裏痛ム時ハ石ヲ燒其上ニ蔣ヲ敷  
又其上ニ塩ヲ澤山ニ置馬ノ痛ム尻ヲ立

テ置脇ヲリ水ヲリロクト入ヘシ水火ノ  
勢ニテ塩凡裏ニ焼付故凡痛ムトナシ能  
能其塩ヲ持セ沓ヲ捆ヘシ  
旅ニテ血ノ落ル事アラハカラムニト云  
草ヲ焼テ付タル吉次ニ疲レ草成タル馬  
ニハ米ヲ水ニテ洗ヒ其終飼事ヲ必ス筭  
一トスヘシ餅米ヲ飼事ナカレ  
同旅路ニテ血落来ハ能キ酢ヲ以テ常ヨ

リ熱ク湯ニテ洗ヒ留ク休メテ溝<sup>溝</sup>之尿ヲ  
拭テ冷スヘシ  
同旅路ニハ蓬艾ヲ啗ニ宿着テハ夜目曲  
地ヲ一灸宛スヘシ癰ムトナシ<sup>モシ</sup>草十ク  
ハ筭ヲ以テ灸スヘシ  
旅ニ趣ク時ハ人馬トモニ草外サレ藥ア  
リ醫術之書ニ記ス  
旅ノ<sup>ヒ</sup>益粥ハ米煮大豆ヲ軍袋ニ入テ持ヘ

シを公儀ノ定法ノ外ニモ用意スヘキ一  
所要ナリ

旅ニシテハ水ノアル所ヲ知ル一宿陳ノ  
所要也拂ノ生タル所白鷺其外水鳥ノ近  
付所山嶮岨ナル下ニハ流レ近シト知ヘ

敵自然出張スル時ハ足輕大将先地利ヲ  
求テ備エソレヨリ段々ニ味方高キニ備

ヘシ水追ニシテ故ニ出合ハ味方必ス水  
ニ近付トナク流ニ向テ備ヘカラス地ニ  
ヨリ時ニ隨テニ町力ニ卑ホト退テ馬ノ  
駈場ヲ請テ備タル吉又敵ノ来ルニモ安  
ク味方ノ夕ヲニモ善キ地ヲ押ス時ハ安  
ニ行事アシシ敵若シ来ハ高キニ備其地  
ヲ取テ敵ヲ送ニ付ヘシ或下テ安ク渡テ  
順ナリトイヘトモ引取ニト思フ時送ニ

シテ悪敷地ニテ敵ニ出合スル持ハ是モ  
妄ニ行ヘカラス又敵モ出テ益ナク味方  
モ行テ利ナキ地ニハ進ムヘカラス暫  
其所ヲ守テ<sup>去</sup>玄ルヘシ敵利ニ集シテ其地  
ヲ半越来ハトツト打破テ通ルヘシ左右  
難所ヲ押行時疑敷所アラハ物見ヲ使シ  
其所ヲ味方ノ左ニ受テ行ヘシ右ニ左ニ  
受通りカタキ道ナラハ車抽ヲ用ヘシ同

左右難所ニシテ然モ道細キ所ニシテ敵  
ニ出合ハ早ク其所ヲ立塞キテ可也敵自  
然塞ハ其地ヲ<sup>去</sup>玄テ守ヘシ敵必ス間道ヲ  
求テ来ルヘシ然ハ己前之地ニハ兵少ナ  
カラニ其特キ破テ通ルヘシ兩陣ノ間ニ  
難所アラハ味方ニ早ク是ヲ取ヘシ敵備  
ハ進ム<sup>ト</sup>アルヘカラス宿陣ニ着テ本陣  
ノ相圖マテハ前後ノ弓鉄炮ハ備ヲ正シ

クシテ守ルヘシ  
山中ヲ押將ハ山上ニ物見ノ上相圖ノ印  
ヲ以テ敵ノ往來ヲ知ルヘシ  
山中又嶮難ノ所ニテハ馬ヲ用ル事成力  
タシ去ニ依テ諸兵皆歩行タルヘシ然共  
人馬トモ、山路ヲ得<sup>得</sup>タラニハ騎馬モ能  
キ力敵ヲ下ニ受テ押スヘシ歩兵ハ力廿  
ヨリ落リハ騎兵ハ馬ヲ以テ翔破ルヤウ

ニ兼テヨリ相紛アルヘシ將ハ高キニ陣  
所ヘシ手廻リノ兵ハ勿論歩行タルヘシ  
山上ニ物見ヲ上テ將戰見玉フ如ク備ヘ  
シ

當流宗師

迎來流

鹿嶋流

日本武尊

貞純親王

八幡太郎



六條判官 為義

大坪流

湯山入道中原玄住

大坪式部太浦廣秀

村上加賀守 永幸

永藤備前守 国忠

永藤安藝守 好玄

永藤備後守 忠玄

永藤永宮頭 辰遠

大坪本流

丹列住僧 了慶坊

永藤求馬即 辰光

永藤主稅 定易

大社本流

丹波 大社 本流  
丹波 大社 本流  
丹波 大社 本流  
丹波 大社 本流  
丹波 大社 本流

